教養試験問題例

【障がいのある方を対象とした選考】

〔例題　1〕ある工場にはネジを作るＡ～Ｃの３種類の機械がある。この工場で，ある本数のネジを作ることになった。目標の本数のネジを作るのに，機械Ａのみでは５時間かかり，機械Ｂのみでは６時間かかる。機械Ａと機械Ｂの２台を同時に使ってネジを作り始めたところ，２時間たったときに２台とも壊れてネジが作れなくなった。その後，機械Ｃのみを４時間使って目標の本数を作り終えることができた。目標の本数を機械Ｃのみを使って作るとすると何時間かかるか。

1．　9時間
2．12時間
3．15時間
4．18時間
5．21時間

《正答　3》

〔例題　2〕日本国憲法における人権保障に関する次の記述のうち妥当なのはどれか。

1．基本的人権は，天皇からの恩恵として，国民に与えられたものである。

2．国は，法律の根拠があれば，基本的人権に対していかなる制限を加えることも許される。

3．国民は，基本的人権を濫用してはならず，常に公共の福祉のために利用する責任を負う。

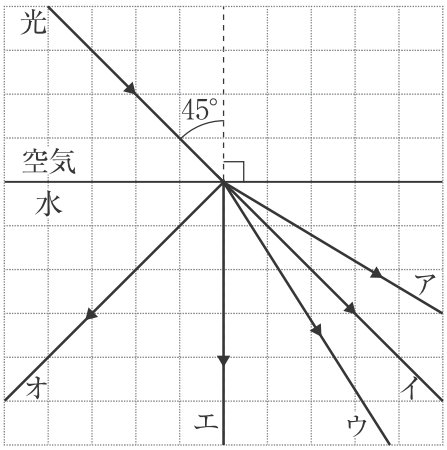
4．基本的人権は個人の権利であるから，会社などの法人には保障されない。

5．基本的人権が私人同士の間で侵害された場合，裁判所は，憲法の基本的人権の規定のいずれについても，私人間の関係に直接適用して紛争を解決する。

《正答　3》

〔例題　3〕 図のように，光を空気中から水中に入射角45°で入射させた。図のア～オのうち，水中における光の通り道を示したものとして妥当なのはどれか。

1．ア
2．イ
3．ウ
4．エ
5．オ



《正答　3》